

1. 17を忘れない ～阪神・淡路大震災追悼～

阪神・淡路大震災を忘れずその記憶を語り伝えるため、朝のSHRの時間に追悼行事を行いました。生徒会代表が全校生に対して下のメッセージを朗読し、そのあと全校生で1分間の黙祷を行いました。

震災から24年を迎えますが、去年は全国各地でいろいろな災害が発生しました。また、近い将来、東南海の大地震の発生も危惧されており、災害の被害者となられた方々に思いを寄せるとともに、震災の記憶を風化させず防災への心構えを新たにすることが大切です。

(校長 高橋信之)

“1. 17、忘れない”

—阪神・淡路大震災の記憶と教訓を広く伝えよう—

2019年1月17日は、阪神・淡路大震災から24年目の日となります。24年の歳月を経てもなお大切な人を亡くした被災者の苦しみと悲しみは消えることはありません。心からお見舞いを申し上げます。発災から7年半が経過した東日本大震災の被災者の無念や喪失感は癒えることなく、慰めの言葉も見つかりません。また、東日本大震災の被災地では、いまだ約5万7千人の人々が不自由、不便な避難生活を強いられており、ふるさとを遠く離れて避難を余儀なくされているこれらの人々のことを考えない日はありません。

阪神・淡路大震災の発災以来、震災の大きな傷から立ち直るために、私たちは文字通り血の出るような苦労を経験しました。「震災前よりもいい社会をつくるのだ」との堅い決意のもとに国の法律や制度の壁をたたき、経済環境の沈滞にほぞをかみ、近隣関係やコミュニティの意義を再確認し、被災者は互いに手を携えて力を尽くしてきました。その道半ばで倒れた友人、知人の顔を思い出すと胸がふさがれる思いです。

今も災害は世界各地で起こっています。今年の6月には大阪府北部を震源とする地震が、9月6日には北海道胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震が発生しました。また、7月には広島県、岡山県、愛媛県をはじめとした西日本豪雨が発生しました。さらには西日本各地を連続した大型台風が襲い、それぞれ各地に甚大な被害をもたらしました。これらの災害による被災者の救援と生活再建、被災地の1日も早い復旧・復興を願わずにはられません。

日本列島は地震の活動期に入り、近い将来には、首都直下や南海トラフ巨大地震・大津波、大規模火山噴火の発生が危惧されています。また、地球温暖化の影響もあって短時間の記録的豪雨や大型台風が増加しているとも指摘されています。今や災害はどこで起きても不思議ではありません。過去の災害に学び、「最悪の場合にどうなるのか」という問いに対する答えをみんなで共有し次なる災害に備えること抜きに、幸せな市民社会を築き持続させていくことはできません。今こそ、市民が主体となった記憶の継承の意義を見つめ直し、地域や団体が互いに手を携えて知恵を出し合い連携を強め、何としてでも震災を風化させまいとこの会を発足した当時を思い起こすときではないでしょうか。

2019年1月17日—

私たちは、阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめとした自然災害やまた人為災害によるすべての犠牲者の御霊を慰め、＜首都直下と南海トラフ巨大地震は近い将来、必ず起こる＞という警告をしっかりと受け止め、私たちが歩んできたまちづくり・くらしづくり・防災・減災への取り組みを、1.17市民の追悼行事のなかから互いに確認しあいこれからも絶やすことなく、さらに強めて伝え続けていきたいと思います。

2018年11月7日

市民による追悼行事を考える会